

## I 概要

- 1 開催日時 令和7年5月31日（土） 午前10時から正午まで
- 2 開催場所 静岡市立高等学校 応接室
- 3 出席者（委員） 海野耕司副会長、大森公香委員、梅島眞代委員
- 4 出席者（学校） 新家輝男校長、佐野仁彦副校長、京田慎一教頭、加納多佳子事務長
- 5 傍聴者 なし
- 6 配布資料 次第  
第60回市高祭パンフレット  
部活動の結果等

## II 議題等（次第順）

- 1 開会のことば
- 2 校長挨拶
  - ・本校教育活動への理解と協力への謝意
  - ・「市高祭」の開催概要について説明
  - ・生徒会を中心とした自主運営、挨拶や姿勢の良さを評価
  - ・学校全体としての質の高さと、さらに上のレベルを目指す必要性を強調
  - ・委員には、生徒の姿を観察のうえ、意見や感想の提供を要請
- 3 日程確認および校内見学の説明
- 4 校内見学
- 5 校内見学に対する感想および助言等
  - ・1年生のモニュメントの展示場所について、以前は職員室横のホールやトイレ前など目に留まりやすい場所にもあったため、今回もそのような工夫があると良いと感じた。
  - ・生徒たちが協力して準備を進めている様子に感銘を受けた。
  - ・各教室での展示も工夫がされており、特に黒板の使い方に驚かされた。
  - ・会場内の動線が分かりにくかった。案内表示がもう少し明確だとよかった。
  - ・過去に訪れたとき、展示されていたセル画がとても上手で感動したのを覚えている。あの様な作品の販売があれば購入したいと思った。
  - ・高校生らしい活発な雰囲気、学校全体に活気があり、とても良い印象であった。
  - ・クラスメイト同士が忙しい中でも協力して準備を進め、連帯感が深まったことは、大変良い経験になったのではないかと思う。
  - ・科学探究科のブースの実験が非常に分かりやすかった。プレゼンタの高さに感心した。マイナス190度の世界など、普段触れない知識を体験でき、他の見学者も関心を持っていた様子であった。
  - ・より多くの人に見てもらえるよう、展示規模を広げる工夫もあると良い。
  - ・学校予算の中で工夫して実施している点も評価されるべき。
  - ・生徒たちが段ボールや粘土など、身近な素材を活用して大規模な作品を作っていたことが印象的であった。
  - ・国別の展示では、黒板を全面活用して特徴を表現しており、完成度が高かった。
  - ・入学希望者に向けた学校のアピールの場があると良く、高校生と交流できるスペースが

あると志望動機につながる可能性があると思う。

- ・北海道の高校では、生徒が保健所への申請や調理まで自主的に行い、地元の農家と連携して野菜の販売も行っている。他校の事例を参考にして、今後の文化祭にも地域性を生かす視点を加えていければ、さらに充実したものになると思う。
- ・1年生は初めての文化祭体験で、団結力が増す良い機会となり、Tシャツ制作などを通じてクラスの一体感が生まれていると感じた。
- ・3年生にとっては最後の文化祭であり、受験に向けて気持ちを切り替える良い区切りとなると思う。
- ・市高祭を通して、学年間の違いや成長が見られ、今後にも良い影響が期待される。
- ・市高祭など生徒の連携や協力によって行われる学校イベントが学校愛や地域・静岡市への愛着にも繋がる機会となると思う。

## 6 今後の日程等の連絡

今後の日程について静岡市立高等学校副校長から連絡

第3回 令和7年9月27日(土) 学校公開日 午前10時から正午まで

第4回 令和8年2月12日(木) 午前10時から正午まで